

【視察の実施】

ゾーン30については庄野小学校地区を、交通安全啓発事業については中勢自動車学校を視察しました。

庄野小学校地区は、平成27年2月に市内で初めてゾーン30に指定されており、危機管理部交通防犯課の説明を受けながら、ゾーン30内のハンプ(通過する車両を減速させるため路面に設けられた凸状の部分)やポストコーンなどの構造物の確認を行いました。

中勢自動車学校では、講習や取り組み内容について説明を受け、中でも70歳から74歳までの方の免許更新時に義務付けられている高齢者講習は、超高齢社会である現在、需要が高く、講習棟を増設して対応しているとのことでした。さらに75歳以上の方は、認知機能検査を受けた結果により、合理化講習、高度化講習などの講習を受講しており、講習の結果によっては運転免許証の返納を促すこともあるとのことでした。

また、最近注目されている取り組みとして、ブラッシュアップ講習についての説明を受けました。これは、運転免許証を取得する20歳前後から高齢者講習を受講する70歳代までの「空白の50年」と言われる期間に、安全運転に関する教育を行うものです。中勢自動車学校では平成29年9月から実施しており、今後も特に力を入れていきたいとのことでした。

【委員間協議では】

ゾーン30は交通事故の減少効果が見込まれますが、ハンプやポストコーンといった、抜け道対策や速度抑制対策に効果のあるものも併せて整備していく必要があるとの意見がありました。また、交通事故の減少に向けてのさらなる対策として、各地区の重要な交差点や人が集まるところなどには、ゾーン30の考え方を応用した取り組みを市内全域でさらに推進していく必要があるとの意見を共有しました。

ブラッシュアップ講習に対しては、市も関与することはできないかとの意見があり、また、運転免許証の更新の際に実施している認知機能検査については、認知症の発症年齢や程度には個人差があり、より若い年齢でも認知症になる可能性があるため、市として取り組んでもらいたいとの意見がありました。



庄野小学校地区への現地視察



中勢自動車学校への現地視察



【調査を踏まえた上で市行政に対し次の提言を行いました】

- ①危険区域をゾーン30に指定するだけでなく、ハンプやポストコーンといった抜け道対策、スピード抑制等に効果のあるものも併せて整備していくこと。また、ゾーン30の考え方を市内の重要な交差点や住宅密集地・通学路等に応用するよう検討すること。
- ②交通事故減少のため、免許証保有者への再教育において、市として関わるできないか、他自治体の取組を調査研究すること。